

# 2018年度第2回 一般社団法人日本箱庭療法学会研修会のお知らせ

主催：一般社団法人日本箱庭療法学会

日 時： 2019年2月17日（日）10：00～16：00（受付9：30～）

会 場： 京都リサーチパーク（京都市下京区中堂寺粟田町93）

## ご挨拶

日頃、さまざまな心理臨床の現場に携わっておられる皆さまには、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

2018年度第2回の全国研修会は、京都リサーチパークで開催させていただきます。全体講演では、京都大学大学院教育学研究科の桑原知子先生に、「箱庭療法でなにがおこっているのか—2、3、4、そして1という切り口から—」という演題で、お話して頂きます。とても面白そうな演題です。どのような「切り口」から箱庭療法が開き示されて行くのか、多いに楽しみです。

さて、今回、関西の全国研修会で取り入れてきた箱庭制作の分科会を、残念ながらご用意することができませんでした。ご協力下さっていたメルコム様のご事情で、箱庭用具をお借りすることができなかったからです。今後、学会側で準備する可能性も含めて議論して行きたいと考えております。

したがって、今回は、事例を検討する7つの分科会を設けております。新しい先生方にも加わって頂きました。7つの分科会のうち3つの分科会で事例を募集しております。桑原先生も、全体会に引き続き、「箱庭療法で何がおこっているのか—事例から考える—」というタイトルで事例を募集しておられます。全体会と関連して、箱庭療法で何がおこっているのかを、じっくり深められそうです。また、第5分科会では高石恭子先生に学生相談の事例を検討して頂きます。学生相談について色々と考えておられる方々には、是非、ご参加頂けると、嬉しいです。

皆さまの奮ってのご参加を心よりお待ちしております。

2018年11月吉日

一般社団法人日本箱庭療法学会 研修委員長 川戸 圓

## <開催要領>

1. 定 員：300名
2. 参加資格：以下の条件のいずれかを満たす方とします。
  - ①一般社団法人日本箱庭療法学会会員
  - ②箱庭療法を導入・または導入を検討中の児童相談所・児童養護施設等の心理職に従事されている方
  - ③箱庭療法を導入・または導入を検討中の学校等教育機関の保健・養護領域に従事されている方
  - ④心理臨床を専攻する大学院生
3. 参加費：学会員：4,000円 非会員：7,000円 大学院生（非会員）：5,000円
4. 研修ポイント：本研修会への参加は、臨床心理士教育・研修規定別項第2条（3）により、一般参加者は2ポイント、事例呈示者は4ポイント取得となります。

## 5. 研修内容

### (1) 全体会：10：00～12：00

テーマ：「箱庭療法で何がおこっているのか—2, 3, 4, そして、1という切り口から—」

講師：桑原 知子 氏（京都大学大学院教育学研究科）

概要：

箱庭療法がなぜ癒しの効果をもつのか、箱庭療法においてはどのようなことがおこっているのか、ということについては、さまざまなアプローチがなされているとはいえ、それほど明確に説明されているわけではない。実際に箱庭をやってみると、その魅力や、こころがざわめく様を実感できるのだけれど、いざそれが「何なのか」ということは、明確にできないし、やるべきでないようにも思われる。しかし、多職種と協働して働く必要がある臨床心理の現場においては、やはりこの「説明」は必要であり、実際に箱庭療法に携わる自分たちにとってもまた、「確かめておきたい」事柄ではないだろうか。今回は、2, 3, 4, そして1という切り口から箱庭療法に迫ってみたい。できるかぎり、「生きた」箱庭療法が捉えられるよう、努力するつもりである。

### (2) 分科会：13：00～16：00

以下の7グループに分かれ、分科会を行います。

**事例呈示を募集している分科会は、概要の最後に<事例募集>の表記のある分科会です。事例呈示希望者は、「6. 参加・発表申込について」をご参照の上、お申し込みください。**

#### ● 第1分科会 岩宮 恵子（島根大学人間科学部）

『自閉スペクトラム症』と『愛着障害』が重複したクライアントへのかかわり

ベースになる障害があるだけでなく、そこに愛着の問題が重なると、クライアントの抱える困難は何倍増にもなる。この重複は、もともとのクライアントの問題を限りなく複雑にしていく。今回の分科会では、家庭生活が困難になるほどの問題行動が続いていたクライアントの事例を通じて、砂を使ったプレイを繰り返すなかで、どのような理解の方向性が見えてきたのかを検討したい。そしてその検討のなかから、プレイセラピーがもつ現実的な生活への支援の可能性についても考えていきたい。（事例提供者：吉原舞氏）

#### ● 第2分科会 川戸 圓（川戸分析プラクシス）

「芸術と箱庭療法」

様々な芸術作品（文学・絵画・彫刻等々）は、それを製作する人、さらにはそれを味わう多くの人々の心を癒してきました。箱庭を置くこと、絵を描くことにも、心を癒す力があることは、心理療法家の多くが実感しているところでしょう。その力が十全に働くためには、治療者自身が内界の芸術的なものに関わる部分を活性化させる努力を続けることも大切ではないかと思われまます。この分科会ではカウンセリングオフィス神戸同人社の石川敬子氏にご自身のその努力の一端を提示して頂き、その上で氏の事例（箱庭、描画に取り組んだ事例）を提示して頂いて、参加者の皆さんとの議論を深めたいと思います。（事例提供者：石川敬子氏）

#### ● 第3分科会 川原 稔久（大阪府立大学大学院）

「離人感の身体」

離人感における感覚の遠のきは身体をリアルに感じることを遠ざける。セラピストが離人感の世界に箱庭のイメージを通して入り込むことが、いかにして身体感覚を賦活し主体を立ち上げるのかを、自験例によって検討したい。自験例は、幼い頃より自閉的な傾向を持ち、失恋を機に自閉的傾向が破綻して、極度の抑うつと離人感を呈した20代の男性で、約2年間51回の面接で24面の箱庭を継続して作成した。箱庭での感覚体験を支えにしたかったセラピストが導入した箱庭のイメージで、クライアントは離人感と自閉的な世界を実現した。当日は身体感覚から主体が立ち上がる経過を詳しく検討する。（講師自身の自験例）

#### ● 第4分科会 桑原 知子（京都大学大学院教育学研究科）

「箱庭療法で何がおこっているのか—事例から考える—」

今回の研修会では、全体会において、「箱庭療法で何がおこっているのか」というテーマに取り組むことにした。一方で、箱庭療法を「知る」には、事例を切り口として、そこから学ぶことがもっとも近道であり、重要だとも思われる。そこで、本分科会においては、「箱庭療法で何がおこっているのか」

というテーマを念頭におきながら、事例を深く味わいたい。箱庭を含む事例を募集します。どんな場所でおこなわれたものでも、短くてもかまいません。＜事例募集＞

### ● 第5分科会 高石 恭子（甲南大学）

「学生相談における表現技法の今日的活用と意義」

学生相談は、高等教育の一環として行われる個別臨床教育であり、狭義の心理療法をその一部に内包しつつも、より学際的な理論的背景をもつ独自の活動と位置づけられます。近年は短期的成果が求められ、じっくりと時間をかけて心の成長を促す援助は、必ずしも重視されているとは言えない状況がありますが、そのような中で、イメージや非言語的表現を取り入れた相談実践の意義を、私たちは改めて事例を通して確認し、社会に伝えていく責務を負っているのではないのでしょうか。本分科会では、箱庭、描画、その他の表現技法を用いた学生相談事例について、今日的な活用と意義を皆さんと共に考えてみたいと思います。参加者からのご発表を募ります。＜事例募集＞

### ● 第6分科会 弘中 正美（山王教育研究所）

「箱庭療法における遊戯療法」

子どもの心理治療（いわゆる遊戯療法）では、箱庭療法の砂箱・フィギュア、そして箱庭制作そのものが遊びの一部として使われ、機能すると考える必要があります。遊びの比重が大きくなると、箱庭作品を作るのではなく、砂箱の中で遊びそのものが展開します。箱庭療法の可能性をそこまで拡大して考えると、子どもが砂箱とフィギュアを自由に使いこなすことの治療的意義を理解することができます。本分科会では、箱庭の中で子どもとセラピストが戦いを展開することを軸として行われた事例を検討することを通じて、上記のテーマについて考えてみたいと思います。（事例提供者：織田邦彦氏）

### ● 第7分科会 松下 姫歌（京都大学大学院教育学研究科）

「箱庭・描画のイメージを軸においた事例理解および治療構造・連携の検討」

クライアントの家族等の関係者や多職種との連携の重要性が強調される一方、個々の事例の連携に迷う声もよく聴かれる。生育史や問題歴等の情報が得られる事例もあれば、それらの情報が乏しい事例もあるが、いずれの場合も、箱庭や描画は、本人の心とそのポテンシャルに関する情報に富み、事例理解のみならず連携においても有用である。事実の情報により却って一般的理解に囚われることも少なくないが、箱庭や描画は、事例理解の肝となる視点を多面的に得やすく、言語表現を心の表現として見直す契機も得られる。今回は、事例を募り、箱庭や描画等のイメージから事例理解の視点を検討するとともに、連携や治療構造のあり方についても考えたい。箱庭や描画は回数を問わず、一回でも構わない。

＜事例募集＞

各分科会会場につきましては、当日受付にて配布のプログラムにてお知らせいたします。

## 6. 参加・発表申し込みについて

今年度から、WEBもしくはFAXでのお申し込みに変更させていただきます。下記をご確認の上、お申し込みください。

### WEBによる参加・事例発表申込方法

#### 【参加申込】

当会ホームページ（<http://www.sandplay.jp/training.html>）

および右記QRコードの申込フォームよりお申し込みください。

申込が完了しましたら、自動返信メールが送信されます（※パソコン、スマートフォン対応）。自動返信メールが届かない場合は、

一般社団法人日本箱庭療法学会事務局（[office@sandplay.jp](mailto:office@sandplay.jp)）までお問い合わせください。

#### 【事例発表申込】

上記と同様の申込フォームよりお申し込みいただけます。事例発表を「希望する」にチェックし、申込フォーム上にある＜事例概要記入シート＞にご記入の上、メール添付で[office@sandplay.jp](mailto:office@sandplay.jp)までお送りください。参加申込締切後、事例発表の可否について、事務局よりご連絡いたします。

※＜事例概要記入シート＞は、当会ホームページからもダウンロードしていただけます。



## FAXによる参加・事例発表申込方法

### 【参加申込】

同封の参加申込書所定欄に必要事項をご記入の上、一般社団法人日本箱庭療法学会事務局（06-6233-8529）へFAXにてお申し込みください。お申し込みを事務局で確認でき次第、受領FAXを送信いたします。返信FAXが届かない場合は、事務局までお問い合わせください。

### 【事例発表申込】

参加申込書裏面に必要事項をご記入の上、参加申込とあわせてFAXをお送りください。

※メールアドレスをお持ちの方は、WEBからのお申し込みを推奨します。

### ※ 参加申込締切：2019年1月7日（月）【必着】

- ・お申し込みは、原則として先着順とさせていただきます。
- ・分科会コースの通知はおこなわず、お申し込みいただいた分科会で受付けさせていただきます。
- ・定員となった分科会より締め切らせていただきます。また、希望者多数の場合にはご参加いただけない場合もございますので、予めご了承ください。

## 7. 参加費振込みについて

自動返信メールもしくは、返信FAXを受領後に、以下の口座へ参加費をお振込みください。

**振込先： ゆうちょ銀行振替口座 00900-8-233788**

**加入者名： 一般社団法人日本箱庭療法学会研修委員会**

### ※ 参加費振込締切：2019年1月21日（月）

- ・納入された参加費のご返金はできませんので、予めご了承ください。
- ・振替用紙の通信欄には、「2018年度第2回全国研修会参加費」とご記入ください。
- ・振込締切までに入金を確認した方には分科会番号・名前等の記載された名札カード・名札ケースをお送りいたします。当日は名札・名札ケースをご持参いただき、身に着けてご参加ください。
- ・振込締切以降に参加費を入金された場合は、研修会当日に受付で名札をお渡しいたします。
- ・名札ケースは研修会終了後、必ずご返却くださいますようお願いいたします。

## 8. 研修ポイントについて

全体会、分科会の両方に参加した方には、日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士教育・研修規定別項」第2条(3)「本協会が認める関連学会での諸活動への参加」の通り、受講者には2ポイント、分科会での事例発表者には4ポイントが付与されます。名札が研修証明書の代わりにになりますので、大切に保管してください。

## 9. 会場案内

京都駅よりJR嵯峨野線（山陰線）1駅 丹波口駅下車 西へ徒歩5分

※その他のアクセスについては、京都リサーチパークホームページ（<https://www.krp.co.jp/access/>）をご参照ください。

## 10. 研修会に関するお問合せ先

一般社団法人日本箱庭療法学会事務局

住所：〒541-0047 大阪市中央区淡路町

4-3-6 新元社内

FAX：06-6233-8529

E-mail：office@sandplay.jp

